

占冠中央小と占冠中が 小中一貫教育へ移行します

占冠村の小中一貫教育

占冠村では、平成30年度から村内全ての学校において、小中一貫教育をスタートします。

小学校での6年間、中学校での3年間でそれぞれ大切にしながら、2つの学びをつなげ、さらに発展させていくことが占冠村の小中一貫教育のねらいです。特色ある教育活動を展開し、どんなに児童生徒が減少しても学校を存続できるようにしていきます。

平成29年度には、トマム小学校とトマム中学校が、「義務教育学校」に移行し、村内における小中一貫教育のモデルとしての先進的教育活動を行ってきました。

平成30年4月1日からは、占冠中央小学校と占冠中学校を校舎が分かれたままで小中一貫教育を行う「施設分離型」で一貫教育を実施します。離れた場所にある小・中学校が、教育目標や学習指導・生徒指導の方針等を一貫させ、互いに連携、協働しながら「一つの学校」として子どもたちの指導にあたります。

なぜ移行するのか

◎これまでの6・3制

これまでは、小学校での学びの成果が中学校で十分に受け継がれていない場合があり、学びの連続性に乏しい面もありました。また、小・中学校の教員の指導や評価に対する考え方、子どもに対する見方の違いもあり、中学校に入学したときにギャップを感じる場合もありました。

◎小中一貫教育とは

小・中学校の教員の交流や研修を活発に実施することで、小学校の良さを中学校で活かし、中学校の良さを小学校で活かしていきます。また、「こんな子に育てたい」という思いを小・中学校の教員が共有し、ともに子どもたちの成長を支援していきます。小中学校の連携をさらに推進し、すべての教員が9年間を見通した教育を進めます。

このまま、少子化が進むと

- ①中学校において、各教科の免許を持った教員の配置ができなくなる可能性がある。
- ②中学校において養護教諭、事務職員の配置ができなくなる。
- ③PTA行事等における保護者の負担が増える。

小中一貫教育に移行すると

- ①小中の教員を兼務発令することで、柔軟な教員の配置が可能となる。
- ②養護教諭や事務職員を小中学校で兼務することができる。
- ③PTA組織等の一本化や各行事の効率化をさらに推進できる。

現在、私立学校の児童生徒の減少により、教職員数の減少も懸念されております。トマム学校（義務教育学校）と、占冠中央小学校と占冠中学校（小中一貫校（予定））は、今後もさらに連携協力し、一体となって子どもたちの学力保障に努めてまいります。今後とも教育に関するご理解とご協力をお願いします。

占冠中央小学校

-
- ・小中学校と連携強化し、子どもたちの成長を支援
 - ・小中の教員が兼務発令により、小中の教科を受け持つことができる。

占冠中学校

「子育てに関するアンケート」等の結果について

「子育てに関するアンケート」並びに「中学生及び後期課程生アンケート」にご協力いただき、誠にありがとうございました。集計結果の概要をお知らせします。詳細は、村のHPをご覧ください。

皆様からいただいた貴重なご意見は、今後の地方創生の取組に反映してまいります。また、反映状況についても、適宜、お知らせしてまいります。

■趣旨

「占冠村まち・ひと・しごと創生総合戦略」の数値目標に、「占冠村での結婚・出産・子育て満足度 10ポイント上昇」と「地域愛を持つ生徒の割合 20ポイント上昇」を掲げており、昨年度に引き続き、満足度などを把握するため実施いたしました。

■「子育てに関するアンケート」結果の概要（回答数95、回答率22.2%）

【子育て支援の満足度（10点満点）】

＊全体としての評価（表参照）は、「小学生未満の子がいる」方では5点、「小学生の子がいる」方では6点、「中学生の子がいる」方では6点、全体では5.5点となりました。

＊昨年度との比較では、全体評価は0.4点上昇し、項目別では、「小学生未満の子がいる」方では、『保育所』は1点減少したものの、『乳幼児健診・保育指導』は1点上昇、『世代間交流』は2点上昇しました。「小学生の子がいる」方では、ほとんどの項目で満足度が上昇し、『医療サービス』『放課後支援』『外国語・国際交流』『世代間交流』『地域や自然を活かした取組』の5つの項目では2点上昇しました。「中学生の子がいる」方では、『公園等の環境整備』は1点減少したものの、多くの項目で満足度が上昇しました。

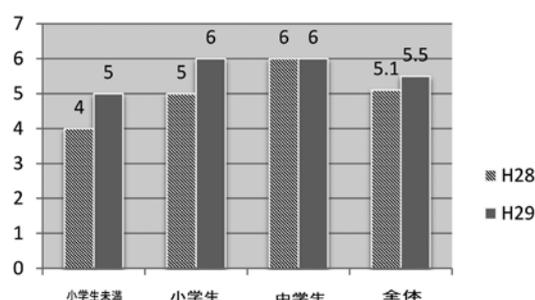
＊『医療費の無料化』は、昨年度同様9点以上と高い評価となりました。

【支援の充実やサービスの改善などの要望】

＊「小学生未満の子がいる」「小学生の子がいる」方では、昨年度と同様に、子どもの遊び場や住宅の整備、保育所入所年齢の引き下げなど『環境整備』の要望が、それぞれ35%、27%と最も多く、続いて、医療費無料化の継続や交通費・学費の補助、出産時のお祝金の支給など『財政的支援』が、それぞれ24%、25%と多くなりました。

＊「中学生の子がいる」方では、昨年度の『財政的支援』に代わり、『放課後の対応』が最も多くなっており（H28：23%→H29：35%）、続いて「特色のある教育（23%）」、「財政的支援（19%）」となっています。

《昨年との全体評価の比較》



■「中学生及び後期課程生アンケート」結果の概要（回答数21、回答率100%）

【占冠村への愛着度（5点満点）】

＊全体では3.6点で、項目別では、『国際交流（4.5点）』、『自然環境（4.4点）』、『安心して暮らせる（4.3点）』の順で高く、『日常の買い物（2.7点）』が最も低くなりました。

＊昨年度との比較では、全体では昨年より0.2点の減少となり、項目別では『放課後の過ごし方』、『国際交流』を除き、減少しました。特に『道路の安全や通行のしやすさ（-0.8点、3.2点）』、『地域の人たちとのつながり（-0.5点、3.7点）』は大きく減少しました。

【村内学習塾（ステップアップサポートゼミ）】

平成29年7月からスタートした村内学習塾については、『利用している』が76%、『利用していない』が24%となっており、利用している生徒からは、「説明が分かりやすい」「できれば他の教科もやりたい」などの声がありました。一方、利用していない生徒からは、「時間がない」「家で勉強するから」「先生と放課後に残ってやっているから」「利用したいと思わない」「めんどくさい」という声がありました。

■お問い合わせ 占冠村地域振興対策室 電話 56-2124